

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	無	
スポーツ科学部	教授	工藤 俊郎			
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
(1)教養科目・基礎教育科目:「日本語技法」での作文指導		2013 (H25) 年度～2022 (R03) 年度	日本語作文の初歩的留意点を記したテキストと新聞記事を用い、毎時間各重点事項に留意した作文指導を行う。新入生の必修科目としてレポート・論文の基本作法が本学初年次学生全員の共通理解事項となることを目指す。2020年度からはGoogle Classroomに解説動画と資料を掲載し学生が自ら復習できるようにしている。		
(2)教養科目・基礎教育科目:「英語 I A」「英語 I B」における到達度確認を重視する授業		2015年度～2022年度	2015、2016年度は中級クラス、2017年度以降は初級クラスを担当した。どちらでも英語運用の基礎となる文法を理解し十分に身に付けることを目標とした。宿題を含めて多量に練習問題を行なうことを重視した。2020年度からはGoogle Classroomに解説動画と資料を掲載し学生が自ら復習できるようにしている。		
(3)教養科目・一般教育科目:「心理学」での授業内での主要テーマに関する記述式問題と添削指導		2013年度～2022年度	各回の授業でテーマを決め説明を行い最後の15分程度を割りテーマに関して記述させる。根拠を挙げて正しく日本語で記されているかの観点を重視して添削して採点し次回授業で返却する。理解した内容を論理的に記述する力を高めることを目指す。2020年度からはGoogle Classroomに解説動画と資料を掲載し学生が自ら復習できるようにしている。		
(4)教職教養科目:「教育心理学」における授業時間外学習に関する工夫		2014年度～2022年度	業の予習課題(空所を設けた指定テキスト要約文)を印刷して配布している。2020年度からはGoogle Classroomに解説動画と資料を掲載し学生が自ら復習できるようにしている。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
(1)日本語技法 I のために「大学1年生のための日本語技法」ナカニシヤ出版(2015)の作成に参加した		2015年度	第1部で大学での高等教育と高等学校までの中等教育での勉学の違いを述べ大学で求められる文章とは何かを説明した。第2部で具体的に日本語表現に関する約束事および大学で求められる文章の書き方を述べた。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
(1)関西FD連絡協議会_FD報告会2014ポスター発表「授業評価結果およびリフレクション公開の取組」		2014年5月17日	次のように授業評価結果を公開するシステムに関する報告を行なった。(1)授業における工夫点、授業の方針、狙い、授業形態等を含む全体像とともに、授業評価結果を公開する。(2)授業評価結果に対する教員のリフレクションも含めて公開した。(3)授業評価結果の経年変化が分かるようにする。(4)提出教員の事務負担を軽減するために前年度の記載内容を修正して提出できるようにした。		
(2)工藤俊郎「大阪体育大学における基礎学力練成」2015年度第21回FDフォーラム予稿集、第12分科会p.11-12		2016年3月6日	本学では、スポーツ競技歴を基準にした選抜で入学してくる学生が少なからずいることから基礎学力に関してはかなり多様な学生が入学してくることを受け、多様な学生に対して大学で学ぶために、また社会に出てから学び続けるために必要な基礎学力の練成を目指した教養教育を行なっている。その実践報告を行なった。		
(3)工藤俊郎「非アクティブラーニング型授業におけるオンライン教材の利用」UeLA & TIES合同フォーラム2016		2017年3月17日	大人教知識注入型授業において学生の積極性を引き出すためには予習が有用であると考え、授業内容に関して授業開始までに予習を課す仕組みを取り入れている。その実践報告である。具体的には、Web上に電子ブック(CHIL0 Book)として課題を呈示し授業開始までに解答したかどうかを確認し平常点として成績評価に加味する仕組みである。		
(4)工藤俊郎「学生一人一人の学習記録を把握して指導に生かす」アルクが実現するトータルソリューション活用事例編、私立大学05、英語の先生応援マガジン2018特別号、株式会社アルク		2018年5月28日	本学1年次必修授業「英語演習」ではアルクNetAcademy2を主教材として用いている。90分授業を2分割してネイティブ教員と日本人教員がそれぞれの特性を生かしたリレー方式で運営している。さらに時間外学習を曜日・時限・教室を指定して課し、その学習記録を成績評価に算入している。その実践を簡単に紹介する記事である。		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書(単著)					
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月
著書(共著・分担執筆)					
題目/書名	著者/編者	初(始)頁～終頁	発行所	発行地	発行年月
「大学1年生のための日本語技法」	長尾佳代子・村上昌孝編著、工藤俊郎、辻内宣博、北澤正憲、堤裕之	p.1-p.6	ナカニシヤ出版	京都	2015/4/1
原著論文(審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)					
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
「スキル開発型英語授業と初期英語力の関係に関する研究」	◎吉沢一也、工藤俊郎	大阪体育大学紀要	第48巻	p.41-48	2017年3月
「スキル開発型英語授業の英語力下位層に対する効果の詳細な検討」	◎ウェインジュリアン、工藤俊郎	大阪体育大学紀要	第49巻	p.57-66	2018年3月

総説						
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月	
「コミュニケーション能力育成講座とその効果測定(グローバル人材育成における応用可能性について)」	◎工藤俊郎, 小野博	グローバル人材教育研究	第1巻第1号	p. 46-54	2014年3月	
その他 (「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入)						
区分	題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
実践報告	異文化対応力測定尺度作成の試み	共 工藤俊郎, 青柳達也	グローバル人材育成教育研究	第7巻1号	p. 30-35	2019年9月
実践報告	異文化対応力測定尺度の試験的運用による短期語学留学の効果検証(長崎大学における試み)	共 古村由美子, 工藤俊郎, 青柳達也, 小野博, 佐々木有紀, 新田よしみ	グローバル人材育成教育研究	第8巻1号	p. 24-35	2020年9月
実践報告	短期海外研修・事前研修の異文化対応力変化の可視化(福岡大学の事例)	共 佐々木有紀, 新田よしみ, 工藤俊郎	グローバル人材育成教育研究	第8巻1号	p. 36-45	2020年9月
学会発表 (「国際学会」、「国内学会(一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等)」、「研究会」等区分を記入)						
区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名	
国内(一般演題)	2016年6月11日	大学教育学会第38回大会	「社会学」集中講義で体罰について考える	立命館大学大阪いばらきキャンパス	長尾田いずみ・高北真史・工藤俊郎・富江英俊	
科学研究費等の取得状況						
科学研究費/その他の助成金/外部資金						
区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額(期間内の総額)	
特許						
特許名称	発明者/出願人	出願日/出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国
Ⅲ 加入学会および社会における活動						
期 間	内 容					
加入学会						
1984年4月～2022年3月	日本心理学会会員					
1986年4月～2020年3月(以降退会)	日本認知科学学会会員					
2008年4月～2022年3月	日本リメディアル教育学会会員					
2009年10月～2020年3月(以降退会)	初年次教育学会会員					
2010年2月～2022年3月	大学教育学会会員					
2013年8月～2022年3月	グローバル人材育成教育学会会員					
社会的活動						
Ⅳ 管理活動						
期 間	内 容					
委員会活動						
2015年4月～2021年3月	情報処理センター委員会委員長					
2015年4月～2021年3月	学習支援室運営委員会委員長					
2016年4月～2018年3月	全学教務委員会委員					
2016年4月～2018年3月	全学教職課程委員会委員					
2016年4月～2018年3月	全学キャリア支援委員会委員					
2016年4月～2018年3月	学生相談室運営委員会委員					
2015年4月～2018年3月	広報委員会委員					
2015年4月～2018年3月	図書館委員会委員					
2016年4月～2018年3月	個人情報保護委員会委員					
2016年4月～2018年3月	障がい学生支援委員会委員					
2015年4月～2018年3月	体育学部教務委員会委員長					
2015年4月～2021年3月	体育学部・学科連絡会議/教養教育センター主任					
2016年4月～2017年3月	体育学部・自己点検・評価委員会委員					

2016年4月～2018年3月

体育学部・予算委員会委員

2015年4月～2022年3月	体育学部・入試委員会委員					
2016年4月～2018年3月	体育学部・カリキュラム委員会委員					
特別プロジェクト活動						
V クラブ活動の指導業績						
1. 指導クラブ名	剣道	部	2. 役職	1997年～部長	3. 部員数	50 人
4. 現場指導の頻度	⑤ ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導					
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：	日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	③ ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	③ ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
8. 部員の就職指導への取り組み	④ ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所			
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)						
開催期間	大会名	成績	場所			
VI 賞罰 (職務に関する賞罰)						
年 月	受賞等機関名	内 容		備 考		